

## 第2回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

日 時	令和6年2月7日(水) 16時00分～17時00分				会 場		市役所103会議室	
委 員	船越 美穂	○	中山 健	○	木部 里美	欠	北岡 かや子	○
	瀧口 千恵子	欠	高橋 茂	○	木村 真彦	○	奥村 美香	欠
	溝田 こころ	○	岩下 桃子	欠	大和 寿美	○		
事務局	高宮教育長、(地域教育連携室)賀来参事、(教育政策課)石川指導主事、(学校整備プロジェクト室)田中主幹兼係長、(子ども支援課)姫野係長、(子ども家庭センター)大森係長、(子ども育成課)許斐課長、平島係長、飯野係長、三吉							

### 1 あいさつ

教育長より開会のあいさつ

### 2 報告

○第1回審議会での質問について

【学校整備プロジェクト室より】

・令和5年度の就学相談の全体の件数は、253件。その内、年長児は96件。年長児の相談件数は、年々増加している。相談回数は、基本14回だが、令和5年度においては臨時で1回行い、合計15回実施した。1回の件数は、およそ12～14件で、面談をして判断会議を行っている。

○令和5年度幼児教育事業の実施状況について事務局より説明

### 3 協議

○令和6年度の幼児教育事業計画(案)について事務局より説明

○基本施策 1

・研修後は、園内の職員間で、研修会で学んだことを共有してほしい。  
・園では研修会の内容は共有しており、園の特色を大切にしながら、取り入れられることから保育に活かしていきたい。

○基本施策 2

・幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研修会の第2回と第3回の対象の先生を知りたい。

【事務局】

・対象者は、1学年担任と年長児担任を中心に行った。

## ○保育の日について

- ・新入園児が入る4月に、保育の日を実施できる園はあるのか。

### 【事務局】

- ・保育の日の実施について、園にアンケート調査を行ったところ、4月に実施可能な園が3園あった。また、見学可能な時間については、園によって様々だったため、各園に設定してもらう予定である。
- ・令和6年度は、届出保育施設に拡大し、実施予定。
- ・保育の日では、見学行く側、受け入れる側の都合も大事だが、何より大事なものは、在籍している子どもたちのことである。進級園児・新入園児の安定や子どもを尊重して実施することが大事である。
- ・保育の日として、園を見学できる取り組みは有難い。
- ・保育の日に療育施設の先生が訪問してもよいか

### 【事務局】

- ・現在、療育施設の先生を対象者として設定していないが、今年度・昨年度見学に行かれた先生はいた。希望される先生については、安全面を考慮し、事前に訪問者を園に伝えたいと思う。
- ・見学の後に質問できる時間はあるのか

### 【事務局】

- ・特に質問の時間を設けていないが、質問があれば各園で対応していただいている。
- ・保育の日は、日常の子どもたちのありのままの姿を見てもらうのが目的である。
- ・事前に申し込みを行い、安全面に配慮して実施する。

## ○幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研修会について

### 【事務局】

- ・福岡教育大学附属幼稚園で、宗像市保育所保育士・幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭を対象に実施した。参加の先生方には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点に置きながら参観してもらいグループ協議を行った。子どもの活動と10の姿を当てはめながら見学することで、より子どもの姿の理解が深まった。
- ・保育参観の設定保育では、子どもたちのグループでの話し合いのもっていき方をとても研究されているように感じた。参観後のグループ協議では、園や小学校のそれぞれの課題について共有できたことがよかった。
- ・研修会では、スタートカリキュラムについて課題意識をもって取り組むことができた。保育参観を通し、安心・安全の環境づくりを学ぶことができた。
- ・スタートカリキュラムが作り込まれていて素晴らしいと思った。計画の中に達成できるものもあるとよいと感じた。
- ・幼児教育事業報告や計画から、福岡教育大学附属幼稚園が重要な資源になっていると感じた。
- ・事業計画の内容が多岐にわたって素晴らしい。今後は、それぞれの事業つながりが見えるとよい。
- ・福岡教育大学附属幼稚園の環境を活かして学びの場を提供し、宗像市に貢献していただきたい。
- ・園から小学校への切り替えが難しいため、環境づくりを大切にしたい。
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の視点を持つことも接続において大切である。

- ・小中一貫教育において、幼保連携を踏まえ、つながりを考えていくことが大事な視点だと感じた。
- ・小学校では毎週会議を行い、研修会の共有や子どもの支援について話し合う場を作っている。
- ・宗像市は、園から小学校へスムーズにあがれるよう連携・接続に向けてたくさんの研修会を実施されていて素晴らしいと感じた。

#### ○基本施策 3

- ・本会議を通して先生方が日々の保育以外に学ばれている研修会などを知ることができてよかった。
- ・園では、先生がされている研修会を保護者が知る機会がなかった。
- ・研修会の内容や接続の大切さなどを、クラスだよりで知らせている園の先生もいる。
- ・幼稚園教育要領の意味や遊びの大切さを知ることで保護者の理解が深まる。
- ・先生が学んでいることを、保護者へわかりやすい言葉で発信していくことが大切である。
- ・保護者が先生方の学びを共有することで、信頼関係が深まるように感じた。
- ・子育て支援センターでの未就園児の相談の中で、幼稚園に預ける年齢が低齢化しているのを感じた。
- ・園に入れないかもしれないという不安を抱えている保護者が増えている。
- ・令和6年度から幼児教育事業計画に「家庭教育学級支援事業」を載せることによって、宗像市幼児教育振興プログラムの4つの柱の「家庭の教育力の向上」が加わり、バランスのよい計画となった。
- ・保護者対象の家庭教育学級支援事業の学ぶ場は、保護者の不安を和らげる重要役割がある。

#### ○基本施策 4

- ・庁内連携会議と他のものとのつながりが見えると、次の課題や取り組むことなどが見えてくるのではないかな。
- ・療育につながる子どもは、遊び込むことは難しいと感じる中、園見学の際に泥団子作りに集中する姿に安堵した。座って話が聞くことが難しい子どももいるが、そのバランスが大切さだと感じた。
- ・幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿の視点で見ると、遊んでいるだけでなく様々な育ちの姿が見え、感動することが多い。
- ・配慮が必要なお子さんを持つ保護者の中には、子育てが一段落し子どもが独り立ちすると、次は保護者を支える側になっている人もいると感じた。

## 6 あいさつ

子ども育成課長より閉会のあいさつ